

2006.4.19

1) 委員校・役員校選任パターン

- ①委員校は、毎年顧問総会において6校選出される。その地域別選出法は以下の通り。

横浜地区・・・・・・・・・・2校（県立1校、市・私立1校）
川崎・横須賀・三浦・湘南地区・・・・2校
北相・西湘地区・・・・・・・・・・2校

合計・・・・・・・・・・・・・・・・6校

- ②前年度選出された委員校のうち3校は役員校に昇格する。（任期は2年）

残りの3校はさらに1年委員校となる。

- ③つまり、校内放送委員会は、毎年役員校6校、委員校9校の体制で運営される。

2) 各地区の委員校選出の方法

あ) 川崎・横須賀・三浦・湘南地区

順位		
1	県立茅ヶ崎	2001
2	日大藤沢	2005
3	湘南工科大付属	
4	県立久里浜	
5	県立三浦臨海	
6	県立横須賀大津	
7	逗子開成	
8	県立住吉	
9	県立向の岡工	
10	県立逗子	
11	横須賀学院	
12	県立生田東	
13	県立生田	
14	市立横須賀	
15	県立逗葉	
16	県立川崎工業	
17	県立菅	
18	カリタス女子	
19	川崎市立高津	
20	県立川崎	

21	県立津久井浜	
22	川崎市立川崎	
23	県立百合丘	
24	法政大学第二	2004
25	県立横須賀	99 2004
26	県立追浜	98 2005
27	県立新城	99
28	県立大師	99
29	県立麻生総合	00 2004
30	県立多摩	00
31	川崎北	2002
32	川崎市立商業	2002
33	県立平塚江南	2002
34	県立藤沢工科	2003
35	県立高浜	
36	県立大船	
37	川崎市立橘	
38	県立鎌倉	
39	湘南白百合	
40		
41		

a) 新しい学校が加入してきた時は、一番最後に回す。

b) 部員数の関係で、委員校になれない学校は、後に回し、復帰した時点で委員校として復帰する。

い) 横浜地区

県立高校は、あいうえお順で1校。

市立・私立から順番で1校。

県立		市立	
旭		金沢	02
和泉		桜ヶ丘	
磯子		鶴見工業	
市が尾		戸塚	03
荏田		東	
岡津		みなと総合	
金井	00	南	
神奈川工業	00		
神奈川総合		私立	
金沢総合			
釜利谷		神奈川学園	
上矢部		神奈川大附属	
川和		慶應義塾	
岸根		サレジオ学園	
希望が丘		聖ヨセフ学園	
港南台		捜真女学校	01
港北		高木学園女子	
商工		鶴見女子	05
城郷		桐蔭学園	
新栄		日本大学	
瀬谷西	01	白鷗女子	
鶴見	01	富士見丘	04
鶴見総合		法政大学女子	
永谷	04	森村学園	
新羽		横浜	
白山	02	横浜英和女学園	
柏陽		横浜学園	
松葉		横浜共立学園	
保土ヶ谷		横浜創学館	
六ツ川	05	横浜女学院	
元石川	03	横浜国際女学院翠校	
横浜桜陽		横浜清風	
横浜翠嵐	02	横浜創英	
横浜南陵		横浜隼人	
横浜平沼	※06	横浜双葉	
横浜旭陵		横浜山手女子	

う) 北相・西湘地区

高視研の北相地区学校名簿から50音順。

終了後、西湘地区学校名簿から50音順。

北相地区		西湘地区	
麻布大附属淵野辺	04	足柄	03
厚木東		伊志田	
厚木青南		伊勢原	
綾瀬		小田原	
綾瀬西		小田原城東	
有馬	※05	小田原城北工業	
海老名	05	向上	04
大沢		西湘	
上溝		相洋	
上溝南		秦野	
栗原		山北	
相模大野		湯河原	
相模女子大高等部	00	吉田島農林	
相模田名	00		
相模原			
座間	01		
星槎宮沢			
東海大学附属相模	01		
橋本			
ひばりが丘			
弥栄西			
弥栄東			
大和	02		
大和西	02		
大和東	03		